

令和6年度版 イノシシ 被害対策マニュアル



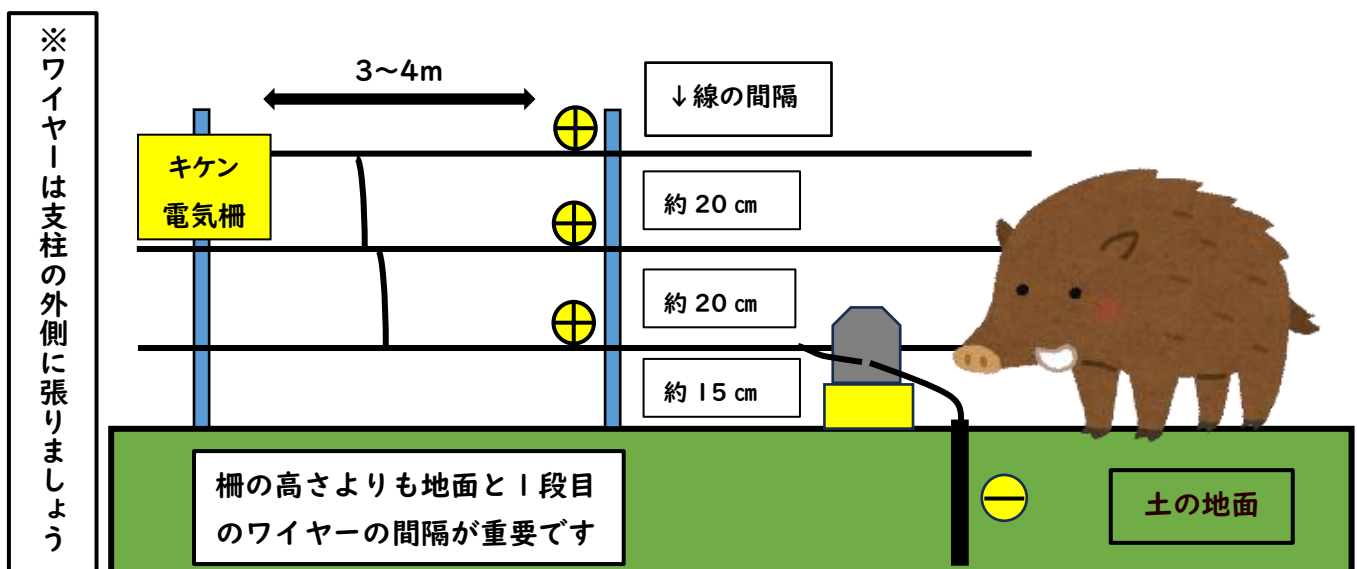
狩猟普及委員会

①イノシシの生態について



- もとは昼行性ですが、警戒心が強く、人が少ない夜に活発的に行動する個体が増えています。
- 1歳半程でメスは妊娠可能な体に成長します。オスは1歳程で母親から離れ、単体で行動するようになりますが、メスは母親から離れずにその後も一緒に暮らしていきます。
- メスは春に4~6頭程の子どもを出産します(秋~冬頃に再度出産する場合があります)
- 雑食性でミミズ、虫、ヘビ、カエル、堅果類、野菜、果物、青草などを食べます。
- 鼻はとても敏感で人間の8000倍程の嗅覚があります。休耕時期でも土中の作物の根、ミミズ、虫の匂いを嗅ぎとり、土を掘り返して食べてしまいます。
- 「イノシシは青色が嫌い」、「光るテープが嫌い」などの都市伝説があります。イノシシの眼は青色を認識しやすい構造しています。かといって青色や光るテープが苦手という訳ではありません。

②イノシシを想定した電気柵の張り方のポイント(例)



イノシシは柵の下からもぐり込み、柵内に入ろうとする習性があります。地域によっては平らな地形でなく、大きな窪みがあるような場所もあり、柵を設置した場合、その部分だけ1段目のワイヤーと地面との間隔が広くなってしまいます。その場合は、窪んでいる箇所に支柱を1本追加し、地面と1段目のワイヤーの間隔が適正になるよう調整する必要があります。

③イノシシ用電気柵の張り方の重要なポイント

- 農地区画の角に設置する支柱は**若干太目でしっかりしたもの**(FRP製など)。中間の支柱は、イノシシが寄りかかっても倒れないような**弾力性があるもの**(グラスファイバー製など)がおすすめです。
- イノシシ用の電気柵は「柵の高さ」はそれほど重要ではありません。多くの大型野生動物は、障害物があった場合、まず**ワイヤーを鼻で安全かどうかを確認しようとする習性があります**。毛で覆われていない**イノシシの湿った鼻先は**とても感電しやすい部分です。**“電気柵” = “怖いもの”**と学習させましょう。
- 通電していない電気柵は**“電気柵” = “恐くないもの”**とイノシシに学習させてしまい、**電気柵を恐れないイノシシを増やしてしまいます**。電気柵本体の電源は「**24時間365日つけっぱなし**」が基本です。電圧は**4000V~6000V(可能であれば5000V以上)**を維持しましょう。また漏電していないか定期的に専用計測器で電圧のチェックをしましょう。
- 雑草や枝などが電気ワイヤーに触れているとその部分から漏電します。**“除草剤を撒く・除草シートを敷く・定期的な草刈りを行う”**などの漏電対策を行きましょう。
- イノシシの鼻先がワイヤーに触れた場合、**電気はイノシシの鼻先から足、足から地面へと流れていきます**。イノシシの足元がコンクリートや砂利では電気はうまく流れません。足が着いている地面が土であれば電気が通りやすく、しっかりと感電します。

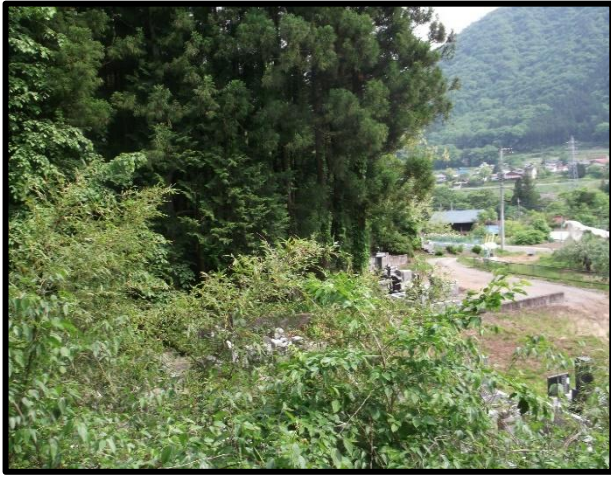
④餌場、隠れ場を除去する



うまそうな香り…
もう我慢できない!



※イノシシは嗅覚が大変優れているため、上の写真のような生ゴミや残渣の上に土砂を軽く被せたり、シートを被せて生ゴミ等を隠したりしたとしても、臭いに釣られてやって来てしまいます。屋外にはイノシシの誘因物になる物をそのまま放置しないようにしましょう。「**ペットフード**」もイノシシの誘因物です。犬や猫を屋外で飼育している場合は注意しましょう。

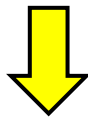


イノシシの目から見れば
都合の良い隠れ場ですが…

イノシシにとって集落の山際や川際の茂みの中は
人に見つからずに移動できる安全な隠れ場です。

彼らは **茂みの中=安全な場所**

だと分かっています



茂みの草をキレイに刈り取ると…



フ、フヒー！なんということでしょう！

草が茂っていて隠れやすく、
住み心地が良かった以前に
比べ、スッキリと見通しが
良く、「居心地が悪い空間」
が演出されています！！



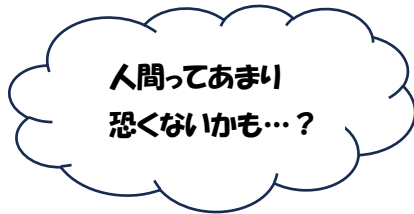
⑤イノシシの餌場、隠れ場を除去するうえで重要なこと

- 農作物などの廃棄が出てしまった場合は、屋外にそのまま放置せず、適切な方法で処分して下さい。
採取予定の無い放任果樹などは、枝や果実を切り落とし処分するか、可能であれば伐採しましょう。
- 集落内の山際、川際の茂みの中は、イノシシを含め多くの野生動物にとって人に見つからずに安心して移動できる道であり、安全地帯です。定期的に集落周りの茂みの下草、低木の刈り払いを行いましょう。
- 耕作休止期でも、イノシシは農地にミミズ・虫・作物の根などを目当てにやってきます。
イノシシ被害がある地域では、24時間365日電気柵本体の電源を入れておきましょう。
通電していない電気ワイヤーは「通電している電気柵さえ恐れないイノシシ」をつくり出す原因になります。
本体の電源を長期間切る場合は、電気柵（もしくは電気ワイヤーだけでも）を撤去しましょう。

⑥人とイノシシの関係について



- 野生のイノシシは警戒心の強い動物です。しかし集落付近で過ごすことにより、人に慣れてしまったイノシシは、日中でも集落に侵入し、農作物を食べ荒らす個体になってしまう可能性があります。



- イノシシは自分や自分の子どもの命の危険を感じた時は、人に対して攻撃的になる場合があります。

- イノシシに体当たりされ、転んだ拍子に捻挫・骨折、体当たりしたイノシシの牙が足に刺さり大ケガを負うなど毎年イノシシ被害による人身事故は絶えません。

⑦イノシシと近距離で遭遇した時に気を付けること

- ・イノシシに近寄って攻撃したり、威嚇したりする。

⇒逆上したイノシシが人に向かってくるケースもあります。



- ・イノシシの子どもに近づいたり、追いかけたりする。

⇒近くに母親のイノシシがいる可能性が高く、子どもを守る為に攻撃してくるかもしれません。



- ・近距離にいる興奮したイノシシに背を向け走って逃げる。

⇒正面を向き、イノシシの様子を見ながら、ゆっくりと後退しその場から離れましょう。



※上記以外にも近距離にいるイノシシを刺激するような行動は控えましょう。

⑧山林内で下記のようなプレートを見かけた場合

許可証 番号		許可の 効期		年	
氏名			月	日	から
住所				年	
			月	日	まで
●					●
電話 番号					
許可 者					

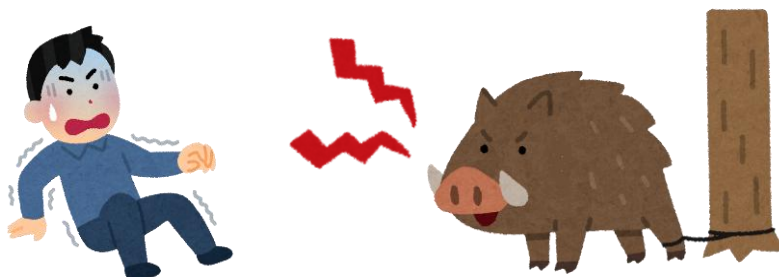
上の画像のような白いプレートがある場所付近には「くくり罠」（金属製のワイヤーで片足を拘束する罠）が設置されている可能性があります。

国内において、狩猟者や有害鳥獣捕獲等従事者が「くくり罠」で片足を拘束されたニホンジカやイノシシに体当たりされ、大ケガを負うような事故が毎年起きています。

野生動物は通常であれば警戒心が強く、よほどのことが無い限り彼らの方から人間に近づくようなことはありませんが、自らの命（もしくは自分の子ども）の危険を感じた場合、近づくものに対して威嚇行動をとります。

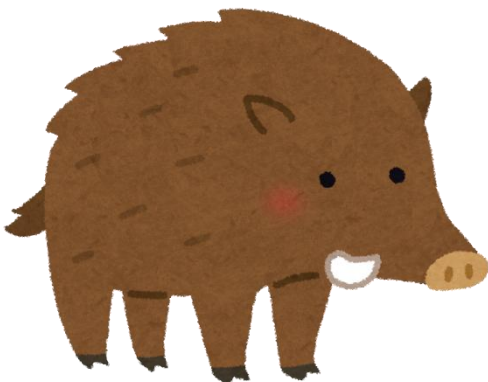
上のような白いプレート（有害鳥獣捕獲期・狩猟期）がある付近には、狩猟者や従事者が仕掛けた罠があり、片足をワイヤーで拘束されたニホンジカやイノシシ、場合によってはツキノワグマなどの大型野生動物が付近の茂みの中に潜んでいる可能性があります。

山林内で上記のようなネームプレートを見かけた際は、十分にご注意下さい。



イノシシ対策チェックシート

- イノシシにあった高さ・ワイヤーの間隔等を考慮し、柵を設営している。
- 電気柵の電圧は適正な値になっている。また定期的に電圧を確認している。
- 電気柵の本体の電源を切った状態で電気柵を長期間放置していない。
- ワイヤーマッシュ柵等の物理柵を使用する場合、メッシュの下部や繋ぎ目からのイノシシの侵入を防ぐ処理を行っている。
- 無意識の餌付け(不適切な場所への作物廃棄、放任果樹、屋外にペットフードを放置など)を行っていない。
- 集落がイノシシにとって過ごしやすい環境になっていない。



**全てにチェックマークがついていれば、
安心して農作物を作れる環境と言っても
過言ではありません。**